

鋼構造環境小委員会 2012年度第4回議事録

日 時： 2012年12月14日(金) 16:00～18:00
場 所： 建築会館会議室 305号
出席者： 藤田(正), 緑川, 岩田, 長尾, 木村(衛), 石原, 小岩, 藤田(哲),
木村(麗), 瀧, 松元, 岡崎, 兼光 (敬称略)

記録：兼光

資料

- 2012-4-1 鋼構造環境小委員会 2012年度第3回議事録(兼光)
- 2012-4-2 構造関係規準・指針の将来検討WG報告書 2007.12(藤田(正))
- 2012-4-3 溶接接合設計施工ガイドブック 2008.11(藤田(正))
- 2012-4-4 CASBEEと優遇税制の現状(小岩)
- 2012-4-5 既存の基礎杭の再利用について(小岩)
- 2012-4-6 躯体部材の再利用に関する評価について(兼光)
- 2012-4-7 戸建住宅におけるリユース促進のための課題(松元)
- 2012-4-8 大会PD報告原稿(木村(麗))
- 2012-4-9 サンストリート亀有(瀧)

議事

1. 前回議事録の確認(資料 2012-4-1)

- ・兼光より, 資料 2012-4-1 を読み上げ, 了承された。

2. 作成予定のガイドブックの名前について(資料 2012-4-2, 2012-4-3)

- ・藤田(正)主査より, 資料 2012-4-2 にて, 建築学会における「規準」と「指針」の定義について説明があった。
- ・藤田(正)主査より, 建築学会における「ガイドブック」の例として資料 2012-4-3 の情報提供があった。

〔意見〕

- ・本小委員会では, 「指針(第1タイプ)」を目指す。
- ・理由は, 指針の定義と本小委員会の目標がほぼ一致するためである。
- ・指針の定義は, 「規準や仕様書とは異なる新しい思想・概念や設計法を先端的研究成果および技術発展に基づいて提示するための文書」である。
- ・本小委員会の目標は, 「鋼構造のリユース」という新しい概念を示すこと, その概念を実現させるための新しい技術・設計法などを提示することである。

3. 各委員の検討報告

(1) CASBEEと優遇税制の現状(資料 2012-4-4)

- ・小岩委員より, 資料 2012-4-4 にて説明があった。
- ・現段階では, CASBEE を利用した税制特例はない。
- ・ただし, 国交省は都市再生促進税制の延長(H23年度から2年間)にあたって, CASBEE を検討した。(採用されていない)

(2) 既存の基礎杭の再利用について(資料 2012-4-5)

- ・小岩委員より, 資料 2012-4-5 にて説明があった。
- ・既存杭の再利用に関する図書を調査した。
- ・「既存杭等再利用の設計マニュアル(案), 構造法連研究会(構造計画研究所他), 2008年10月」は参考になる。

〔意見〕

- ・既存杭等再利用の設計マニュアル(案)の検討フロー(資料 2012-4-5 の図 1.1)は, 鋼構造のリユース指針を考える上で参考になる。

検討フローを分析し, 設計法などの提案の参考にならないかを検討する(小岩委員担当)

余裕度の評価方法について参考になる。再利用する鋼構造に関する余裕度について検討する(長尾委員担当)

(3) 戸建住宅におけるリユース促進のための課題(資料 2012-4-7)

- ・兼光(松元委員代理)より, 資料 2012-4-7 の説明があった。

〔意見〕

- ・次回，松元委員より再度説明頂く。

(4)有期限建築の課題（資料 2012-4-9）

- ・瀧委員より，資料 2012-4-9 の説明があった。
- ・サンストリート亀有については，当初予定の 15 年は経過しているが現在も使用している。現段階では，有期限としての計画は不明。
- ・リユースの経済的メリットをすぐに明示することは現状困難で，まずは，動機付け（CASBEE，補助金，リユース賞など）の運動をするべきである。

4. CASBEE へのリユース材評価項目の追加を要望する件について（資料 2012-4-6）

- ・兼光委員より，資料 2012-4-6(国土交通省: CASBEE 開発委員会)にて説明があった。
〔意見〕
- ・2.6 部材の再利用可能性向上の取り組みの中の表現は以下のように修正し，CASBEE 小委員会に提示する。
- ・評価する取り組み：鉄骨等の構造部材あるいは構造部材ユニットが容易に分解でき・・・

鉄骨等の構造部材あるいは構造部材そのユニットが容易に分解でき・・・

- ・解説：「再利用できる構造部材あるいは構造部材ユニット・・・」とは，・・・

案 1：解説文をすべて消す

「再利用できる構造部材あるいは構造部材ユニット・・・」とは、構造部材あるいは構造部材ユニット同士が、容易に分解され、再利用できるように意図して設計されている取り組みを評価する。尚、鉄骨部材の接合をボルト接合にするなど、通常的设计のみで再利用の設計が意図してなされていない取り組みは評価しない。

理由：評価する取り組みの表に記載した文章で理解できるから。

案 2：解説文の後半部分を消す

「再利用できる構造部材あるいはそのユニット」とは、構造部材あるいはそのユニット同士が、容易に分解され、再利用できるように意図して設計されている取り組みを評価する。尚、鉄骨部材の接合をボルト接合にするなど、通常的设计のみで再利用の設計が意図してなされていない取り組みは評価しない。

理由：構造部材の再利用には，鉄骨を切断し溶接で再接合するなど，面倒だが物理的に可能である場合も存在する。しかし，物理的に可能であっても，一般的に再利用できるとは言い難い設計，すなわち，再利用を意図していない設計は取り組みとして除外すべきである。そのことを明示する。解説文の後半部分は前半部分と同じことを述べており，冗長であるため削除。

案 3：解説文の前半を残し，例を示す。

「再利用できる構造部材あるいはそのユニット」とは、構造部材あるいはそのユニット同士が、容易に分解され、再利用できるように意図して設計されている取り組みを評価する。尚、鉄骨部材の接合をボルト接合にするなど、通常的设计のみで再利用の設計が意図してなされていない取り組みは評価しない。例として，鉄骨造の柱梁接合部を全てボルト接合にした場合がある。

理由：案 2 と同じ理由。+ 他の取り組み内容に関する解説には，例が示されており，トーンを合わせるため。

CASBEE 小委員会では，案 3 をベースに検討中

5. 大会 PD 報告原稿（資料 2012-4-8）

- ・木村（麗）より，資料 2012-4-8 を学会事務局に提出した旨 報告があった。

6. 話題提供（木村(麗)委員より）

- ・2013 年 4 月 17 日に「期限付き建築物の設計マニュアル・同解説講習会（仮設構造運営委員会）」の周知があった。

7. 次回の予定

- ・2013 年 3 月 25 日（月） 16:00-18:00

- ・議題：

- (1) 戸建住宅におけるリユース促進のための課題（松元委員）
- (2) リユースする鋼構造部材の余裕度評価（長尾委員）
- (3) 既設杭の再利用検討フローの分析（小岩委員）
- (4) HAS-700 鋼を柱材として用いた中低層建物 / 構造用接着剤を適用した鋼構造接合部（岡崎委員） 欠席予定のため，次々回
- (5) その他